

あ と が き

新学習指導要領の全面実施となって4年目となる本年度、本校では研究主題を新たに「生徒エージェンシーの発揮に向けた各教科からの接近（1年次）」と定め、研究を進めてまいりました。

昨年度までの5年間は、新学習指導要領の内容を踏まえ、「未来に生きて働く資質・能力の育成」の研究主題のもと、予測不可能な時代を切り開く力として探究力と省察性を身に付けさせたいと願い研究を進めてまいりました。その中で、カリキュラム・デザインの重要性、授業づくりのしかけや評価、子供が『自己調整』を行う教師の手立て、子供の『探究』の姿を引き出す発達の段階に応じた指標作成等について研究を深めることができました。そして、本年度、これまでの研究をもとに「OECD ラーニング・コンパス」の理念を加え、社会全体のウェルビーイングを目指すために「生徒エージェンシー」に注目し、各教科の本質にせまるような学びのプロセスの中で、どのような学びを展開すれば、子供が生徒エージェンシーの発揮につながる力を身に付けることができるのかについて、研究を進めてまいりました。

本年度、研究の一端をみなさまにご覧いただく機会として、「複式授業研究会」「教育研究発表会」「ICT活用授業研究会」を開催させていただきました。また、研究広報誌「LIVE 創 REATOR」の発刊もいたしました。

私たちの実践研究に対しましては、多くの先生方にご指導、ご助言いただくことができたこと、心より御礼申し上げます。本年度は国立教育政策研究所研究企画開発部統括研究官 千々布敏弥先生に、貴重なご指導、ご助言を賜りました。千々布先生には、本校教員が楽しみながら授業構想をしていることや、これまで長年積み上げてきた研究成果が、子供の姿に現れていることなどについて好評価をいただくとともに、自校の子供の姿と教員の姿から目指す方向を見極めることや、批判的リフレクションが重要であること等のご示唆をいただきました。今後、これらのことを念頭に置いて研究を進め、日々実践を積み重ね、子供の学びの姿から研究を検証していきたいと考えています。

今回、真摯に誠実に、職員一同取り組んだ実践を紀要としてまとめましたが、まだまだ未熟で拙いものでもあります。今日まで、大勢の皆様からいただいたご意見・ご指導を糧に、今後も研究を進めていく所存です。多くの方々にご高覧賜り、ご教示、ご批正いただければ幸いに存じます。

副校長 辻本 和孝

